

第 1 回 津島市総合計画審議会議事録

日時：令和 2 年 10 月 9 日（金）

午後 2 時から

場所：津島市役所 5 階 第 1 委員会室

（出席）

江口忍委員、千頭聡委員、三浦哲司委員、伊藤久夫委員、青木啓委員、浅井彦治委員、石原弘乙委員、加藤文規委員、小出英一委員、小坂井智弘委員、古江俊博委員、安田清時委員、山本達彦委員、横井一雅委員、服部綾子委員、吉田祐衣委員

（欠席）

佐藤彰記委員、前田明美委員

【配布資料】

資料 1 津島市総合計画審議会名簿

資料 2 津島市総合計画審議会条例

資料 3 総合計画の概要及び総合計画審議会について

資料 4 津島市の基礎的概況や市民意識調査結果等の各種調査のポイント

参考資料 1 津島市の基礎的概況

参考資料 2 津島市市民意識調査結果報告書

参考資料 3 第 4 次津島市総合計画総括評価まとめ

参考資料 4 団体インタビュー調査結果

参考資料 5 つしま未来会議結果概要

参考資料 6 第 5 次総合計画策定ワーキンググループ概要

1 開会

2 委員の委嘱

3 市長あいさつ

（日比市長）

皆さんこんにちは。市長の日比でございます。

第 1 回津島市総合計画審議会の開催にあたりまして、一言ご挨拶を申し上げます。

委員の皆さまにおかれましては津島市総合計画審議会の委嘱をお受けいただきました。

台風 14 号の影響の雨で大変お足元の悪い中ご出席を賜り誠にありがとうございます。

津島市では平成 23 年 3 月に第 4 次津島市総合計画を策定し、「人を育み 想いをつなぐ」ともにつくろう 住んでみたくなるまち津島」の実現に向け、市民の皆様と一緒にまちづくりを進めてまいりました。しかしながら、第 4 次の津島市総合計画の計画期限が今年度をもって満了するため、第 5 次津島市総合計画の策定作業を進めております。

策定作業の中では、つしま未来会議で、市民の皆様にもまちづくりのアイデアを検討いただいたほか、庁内において議論を進めてまいりました。

少子高齢化の進展による人口減少、社会経済や市財政規模の縮小など、今後の自治体運営はこれまで以上に厳しさを増すことが予想されますが、その中にあっても明るく豊かな地域社会を持続して、市民一人ひとりが生きがいをもって、安心して快適に暮らすことができるよう、引き続き市民の皆さまとともにまちづくりを進めていきたいと考えております。

そこで総合計画審議会に第5次の津島市総合計画案について諮問させていただきました。

コロナ禍の中で、津島市など地方には大きなチャンスであり、その可能性が生まれてきていると考えております。社会ではこの半年で価値が大きく変わってきており、働き方、暮らし方など価値の自問が始まっております。この流れを津島市に引き寄せる成長戦略をこの総合計画に入れ込まなければなりません。

委員の皆さまにおかれましては、会議等を通じて、調査、審議を行っていただき、思い描く津島市の方向を共有いただきながらご意見をいただきましたら幸いです。

皆さま方のご健勝を祈念いたしまして、挨拶とさせていただきます。

4 委員の自己紹介

各委員、所属と名前を紹介

出席状況の報告

事務局の紹介

5 会長及び副会長の選出

会長に江口委員、副会長に山本委員を選出

会長挨拶

(会長)

皆様こんにちは。名古屋学院大の江口です。

今回は第5次津島市総合計画審議会会長を仰せつかった。

今回の会議は全部で6回と聞いている。最終会は答申で、賞味の議論回数はあまり多くないが、少しでも良い計画づくりにご協力させていただきたい。

市長より挨拶があった通り、90年代から人口が減り、2000年、2010年代と来て自治体が厳しい状況になっているとともに、自治体間の勝敗がかなり明らかになりつつある。そういう中、コロナということで今までの大きな流れが変わるチャンスという面が確かにある。

総合計画は自治体にとって一番基本的な計画で、最も大事なもの。計画期間が10年である。一方で、どの自治体の総合計画でも基本的に同じようなことが書いてあるという批判もある。確かにどこの自治体でも基本的に行政としてやるべきことは共通しており、ある程度似たものになるのは当然であるが、自治体によって差が明らかになっている中で、今回の計画は戦略性があり、津島としてどういう強いところで勝っていくのか、一方で、弱いところの課題についてこれは何とかしていくということで、津島市らしさが求められてくるであろう。

今日の議題の中でも津島市の課題、可能性について委員の皆さんにお話しいただく時間がある。私はまとめ役というよりも、議事進行をさせていただく中で、皆様に少しでもご発

言いただくことを促す役割を務めていきたい。

今から半年と少しの期間だが、よろしくお願ひしたい。

6 審議会の運営について

事務局より説明

7 議事

(1) 総合計画の概要及び総合計画審議会について

(2) 各種調査結果について

(事務局)

資料3、資料4に基づき説明

(会長)

今の資料説明に関して、ご質問、ご意見があればお願ひする。

1点だけ気になったことは資料4のP24 市民アンケートのまちづくりに重要となるキーワードで、子育て支援が圧倒的に高い。今の説明でなるほどと思ったのは、参考資料2のP102に実際の設問は「人口対策を何も行わなかった場合、2015年から45年にかけて津島市の人口が3割近く減ることが予想されます。このため人口減少社会に津島市が対応する必要があります。その場合、優先的に津島市が対応すべきこと」であり、子育て支援に回答が集まったのだと分かった。ほかの質問についても、このような設計があると回答をミスリードする。事務局の方で、ここはこうした設問設計があれば確認いただいて、委員の皆さまと共有いただきたい。

(3) 津島市のまちづくりの成果と課題について

(会長)

「過去10年間で「進展した」「良くなった」と感じられる津島市のまちづくりの成果(強み・伸ばすべき長所)」、もしくは「これから10年先を見据えた時の津島市の問題点(弱み・改善すべき点)」について、どちらかのテーマについてお話しを賜りたい。

(委員)

アンケート結果について皆さんがどうご覧になっているのかが知りたい。20歳代の転出が多いが、10代、20代の方が津島に魅力を感じており、他の年代より多い。住みたいと思う方も20代が多い。しかしどうして転出するのか要因を探る必要がある。

名古屋からも電車を使えばすぐである。また臨海部に働きに行く場合は車で便利である。アンケートでは駅は寂しいという若者の声もあるが、人口当たりの病院は充実している。この規模で市民病院があるのはすごいと思う。

こういったことを考えると、津島は本来すごくポテンシャルがある。若者が津島に魅力を感じ

じているということは、学生時代に郷土の歴史などをちゃんと勉強しているからではないかと思う。そういったことは強みだと思う。

環境の分野では、ごみ処理については市民委員会の人が熱心に活動しており、地域で困りごとがあれば市民がボランティアで駆け付けてアドバイスしており、素晴らしい取組だと思うが、資料4のP22にあるアンケート調査の施策の重要度では「コミュニティ活動の活性化」の重要度が低いのでびっくりした。

津島は外から見ればすごくポテンシャルを持っているが、若者の親の世代が子どもにどう伝えているのか気になった。ご家庭で津島はすばらしいまちだとうまく伝えられていればいいと思う。

総合計画に関しては、施策はどうしても縦割りで分担することは仕方がないが、1つの施策にはいろいろな部局が関係しているはずであり、部局間のつながりがしっかりしていればいいと思うので、柔軟に発想を変えていけばすごくいい総合計画になると思う。

(委員)

つしま未来会議や、職員研修を手伝ったが、総合計画そのものは行政計画にとどまらず、いろんな方々の活動を包含するのが基本になる。役所のみでできることは限られている時代であり、いろいろな方々の力なくしてはできない。

この10年では、津島市では新しい動きが起こっている。未来会議の時も東京から津島が好きだと参加する人がいた。空き家のリノベーションをする若い方の動き、最近では、パークPFIの実験も始まっており、時代に合った新しい芽を伸ばすことが重要である。

注意すべきは、資料4のP22で、先ほど「コミュニティ活動の活性化」の重要度が低いと話があったが、「多文化共生の推進」はさらに低い。一方で、P4にはSDGsのことも書かれているので、この辺りをどうとらえるかだと思う。アンケート結果は現状として踏まえる必要があるが、一方で市としてどこを目指すか、SDGsをどう意識するのかしっかりと受け止める必要がある。

(委員)

この各種調査の中身は内側から見た津島が中心であり、アウトリーチの視点がもう少しあると、より多角的なことが考えられる。

資料4のP22のマトリクスは、重要度と満足度が高いか低いかのマトリクスだが、右下にある満足度が高く、重要度が低い部分がキーポイントとなる。

津島市の弱み、改善すべき点については、市の財政状況について、支出を減らすか収入を増やすかとなる。人口減を食い止めるということもあるが、企業誘致によりプラスの人口異動をさせる長期戦略を位置付けてもよい。また、津島市は地理的な弱みとして、ほぼ全域が海拔ゼロメートル地帯であり、水害や地震に弱いので、治水に関するハードの整備などの対策がある。もう一つは津島市の強みであるソーシャルキャピタルの熟成、コミュニティの熟成、そういったところと連携して防災・減災の対策が期待できる。

(委員)

第4次総合計画策定の時も策定に関わり、その時は市民協働、コミュニティはどういうことかピンと来なかったが、この10年である程度認識されてきたと思う。

市民病院の近くに住んでいるが、市民病院は確実によくなっていると一市民として感じる。この10年、子どもが子ども医療の対象であったこともあり、子育て支援の状況が変わったのは実感している。

にぎわい創出についてはCATVの仕事をしており、市、商工会議所、観光協会の活躍取材しているが、津島市民にどれだけ浸透しているのか疑問を持つ。まちづくりにおいて市が苦勞しているのは感じるが、それが継続されないものもあったと思う。

駅の東側にロータリーができて綺麗になり便利になったが、ご飯食べるところがなく友達を津島に呼べないということ子どもが言っていた。

(委員)

人口は減っているが世帯数が増えているのは、核家族化が進んでいるためであろう。この地域は災害に対する意識がほかの地域に比べて高い。社会福祉協議会はこの10年間で、地区社会福祉協議会の設立がかなり進んできている。

問題点としては、教育に関してもう少し方向性を持って長期的な啓発をするべきである。

社会的分業には、連携よりも連帯が必要であり、専門家が自分のフィールドを持ち、お互い責任を持ち合うしくみが育っていく必要があり、生涯教育が必要である。

津島には比較的まじめな人が多く素地はあるので、努力すれば結果は出ると思う。

(委員)

まちづくり津島というNPOの立ち上げから活動しており、15年になる。津島には文化的遺産があり、歴史があるが、国を代表するような突出したいいものがあるわけではなく、そこそこ良いものがある。しかし、そこそこ良い物もみなさんご存じではなく、NPOまちづくり津島では、津島市民をはじめこの地域の人に対してそれを紹介し、取組に参加してもらえよう活動してきた。その中でいろいろな団体と共同でイベントを進める中で、少しずつ理解をしてくれる方が出てきた。

津島は起伏がなく、年配の方は歩きやすく散歩しやすい体に優しいまちである。年配の方が生き生きと楽しんでいただけるまちだというのが実感である。

一番の問題は子育て世代、20～30代の転出が突出して多いこと。第5次総合計画の中には津島に魅力を感じながら好きになってもらい、税金を納めていただける施策が必要ではないかと考えている。

(委員)

市内に3店舗あるが、天王通支店が来年閉店することになった。

職員に津島市の問題点について聞いたが、一番多かったのが津島駅周辺、特に天王通り沿いに飲食店がなく、シャッター通りであるため、津島駅と津島の観光地として有名な天王川公園

や津島神社の間について改善が必要であると思うとのことであった。

まず駅周辺を整備し、駅から天王川公園の整備を望む。これらの地域に商業、産業が栄えれば、事業所の出店数も増加して、市内への就職者も確保でき、若い世代の流出防止になる。

天王川公園で土日に屋外の飲食が行われているが、以前と比べて公園に観光客を含めてかなりの人が集まっている。こうした試みをもっと多く行っていただければと思う。

(委員)

市民、市役所の方がみんな津島の将来についていろいろな考えを出して、何とかしようという意気込みを感じてきた。これは非常に大きな財産であり、いろいろな人の意識の変革につながる。特に事業を継続することの大切さは、将来も津島に住んでいる人にとっては大事である。

新しい総合計画を作るということで、今までの取組みを積み上げていく必要がある。傍聴者もほかの会議で伝えていただきたい。地域に帰れば、地域で活動している人もいるので、隣の人にも伝えるという意識をどんどんつくる必要がある。

2,300人にアンケートで意見を聞いたということであるが、この数を増やす必要がある。多くの市民に投げかけをして、返事をもらってそれを集約して市民に返事をする必要がある。その点を補っていただけると有効になるのでよろしくお願いしたい。

(委員)

この地域は稲作を中心とした農業が盛んな地域であるが、今の米の価格では農家は成り立たず、農家数、耕地面積は縮小している。一方で農地には洪水を防いでくれるなどの役割があり、農業の現状や役割を伝えながら取り組んでいる内容を4つ紹介する。

まず親子で田植え、稲刈り体験教室を毎年行っており、稲刈りをした後に食べていただくなど、毎回150名ほど参加していただいている。二つ目は、各支店の駐車場で朝市を行っており、地元の生産者が新鮮な野菜を直接販売することで、買い物客も安く新鮮な野菜を購入できる。三つ目は農業塾を開催しており、苗を植えるところから収穫までを学んでもらい、卒業後は朝市の出荷会員となる。四つ目は昨年、あま市内に管理ができない農地を借りて市民農園として地域住民に農業の楽しさを伝えている。

持続可能な取り組みにしていくのは苦労があるが、地域農業振興から地域の活性化につなげることを使命に取り組んでいる。

(委員)

地域の労働条件としては、20%強が津島から名古屋に通勤している。大都市へのあこがれや職種が多いということもあるが、この地域の労働条件は若干低い。名古屋の労働条件を会社にきっちり説明し、条件を少しでも上げていくことが必要と思っている。

津島駅の周辺が深刻な状況であるが、金沢のひがし茶屋街はそんなに長い歴史ではない。天王川公園をきちんと管理している津島市であれば、あのような形のまちづくりを行い、管理・継続ができるのではないかと。

津島駅で降りて津島神社に歩いていく人が多くいるので、神社の歴史をアピールしていくと良い。テレビ番組でも津島神社はよく取り上げられる。御朱印も含めて津島にはポテンシャル

がある。子どものころに親に津島に連れてこられたり、天王祭に連れてこられるとわくわくした。

毎年住みやすいまちのランキングが発表されるが、その指数を確認することで弱点も明確に分かってくると思う。

(委員)

最近はお歩くことが減ったが、楽しいことと言えば食事ということで、出かけたときには携帯電話などで検索しておいしいグルメを見つけるが、津島でグルメなどで検索してもこれはないところがない。

どこかで人が集まって何かやる時に検索して出てくるものがあると良い。グルメサイトはお店が出すのみではなく、店に行った人が投稿もしているが、評判が立てば情報が発信される。また若い人がバーベキューなどで集まれるような場所が近くにあるとよい。

(委員)

2014年の増田レポートから始まり、まち・ひと・しごと創生法から市町村のサバイバルゲームが始まったが、所詮ゼロサムゲームであり、それが良いのか。津島市でも地方創生に取り組んだことには意味があり、方向性のベクトル合わせもできたが、今後2040年に向けて高齢者の数が増える中で、どうしたらよいのか。

一つは、DX、デジタル・トランスフォーメーションをどこまで行うのか。行政も効率化できるので、津島市がどれだけ力を入れるのかが生き残ることに結び付く。

今年の3月に合併特例法が10年延長された。行政のロットを考えると合併も頭の片隅に置いておくべきであろう。

(委員)

資料4のP22のマトリックスでは36の項目がプロットされているが、中身をきちんと見ていくと、第4次から第5次に向けてのヒントが出てくる。

(委員)

津島という町はいいと思ったことはなく、ずっと住み続けるなら良いまちにしたいと思い参加した。昨年津島のお寺巡りのイベントに参加した時に、まちがこんなにきれいになっていると感じた。小路や案内板が観光地のようになって驚いた。地元野菜を利用したレストランがあることや民泊もやっていることも知り、皆さんがいろいろな活動されていると感じた。

市民病院も、津島市に引っ越してきた時には良い評判がなく不安であったが、緩和ケア病棟では先生やナースも親切にしてくれて感謝している。

(委員)

転出率が高く、特に子育て世代の20代から30代にすごく転出が多いことが気になる。自身は転入してきて、来年で10年になるが、子育てにフォーカスを当てると、医療費が中学卒業まで無償化になった。津島に引っ越した時には小学3年生までしか補助されていないと驚い

た。

平成30年度までに出産された家庭に対して子育て応援券が交付されていたが打ち切れ、その代わりに一時預かりのサービスの値下げを行うという変化があった。周りの市町村と比べると一歩遅れたり、支援が求めているものよりもずれているということを感じる。子育て世代としては周りの市の方が過ごしやすいついてしまう。

転出を減らす策としては、まず子どもが生まれて3年の幼稚園入園、その次のポイントは子どもが生まれて6年が勝負の年である。次の年に一旦小学校に入学すると、中学校までは子どもが入れ替わることがないので引っ越したくない。そのタイミングを考えるお母さんは多く、子どものライフステージを中心に考えていく。いかに6年間で転出させないかが大切である。

津島の文化的なものは魅力であるが、それ以外のプラスアルファがないと転出を抑えることができない。子育て世代が少ないのはデメリットであるが、メリットに変えることもできるのではないかと。地価が安く、アクセスも良く、保育園に入り易いと家を構える家庭に対してアピールしていくと子育て世代も入ってくる。

内閣府により結婚新生活支援事業が特定の市町村で始まっている。所得制限はあるものの新婚家庭に30万円渡す取組みであるが、長い目見て、身を切っても試みてみては良いのではないかと。また出産後5年津島で定住する場合に補助金を出すことにすれば、小学校入学までカバーしつつ定住を促していける。定住する人が増えると、津島ににぎわいが出る。観光も大事であるが、住むことになかなか直結しない。観光と定住を分けて考えた上で、いかに定住できるところをつくるのが大事かと思う。

(会長)

ありがとうございます。

多くの委員から指摘があったが、近隣都市への転出が大きな課題である。参考資料1 基礎的概況のP15を見ると、津島の転出入の状況で特に名古屋と愛西に対しては転出超過である。名古屋に転出するのは仕方がないとして、愛西に転出するのはなぜか。愛西と津島はそんなに違うのか以前から謎であったが、子育てに伴う行政の支援のレベル、内容、実施時期について、津島市が遅れているという指摘があった。

過去においては津島が遅れているという状況だったということで、現在の状況は分からないが、そのイメージをまだ引きずっているのか。地方創生で自治体同士が取り組むゼロサムゲームであり、少数の勝者と多数の敗者になるかと思うが、税収の獲得が大事になってきている。近隣都市とは津島市が勝ち切れていなく、若干劣勢であり、どうやっていくのかを考える必要がある。

2点目としては津島のブランドが生かし切れていない。大河ドラマのエンディングで津島神社が紹介されており、知名度はかなりある。古い町並みや天王祭など歴史のしっかりしたまちというイメージがあるがまちづくりに生かし切れていない。

攻めどころとして、特徴を打ち出し切れていない。まちづくりは住む人を増やすのか、来る人を増やす戦略か両方向があるが、津島市はどちらに力点を置くのか。

多くの委員から指摘があったが、駅と天王通りの問題。あのままというのはいただけないので、貴重な発展のネタになる場所をどう使っていくのか。どういう方向で行くのか、住む人目

線か来る人を増やす人目線なのかが大事になる。

皆さんの中で、言い忘れたことがあったらぜひ発言いただきたい。

(委員)

まちの将来像を検討されると思うが、キャッチフレーズに終わっている自治体がほとんどである。本来、将来像を議論して、将来像が各分野から見てどういう意味なのかという議論が重要である。将来像を考える作業はきちんと行うべきであり、少し丁寧に行っていただきたい。

(会長)

ではここで副市長から一言いただきたい。

(津田副市長)

皆様方には貴重なご意見をいただき、今後、総合計画を作り上げる上で本当に参考になる。

会長の言葉にあったように、津島市はポテンシャルが高い都市であるが、その中で津島のブランド、余力をまだ生かし切れていない。

皆様方の貴重なご意見を反映させて、市民の方々に喜んでいただけるまち、住みやすいまち、住んでよかったというまちに向けて、職員一同、総合計画についてしっかり検討していきたい。引き続きご意見をいただきたい。

本日はありがとうございました。

8 その他

事務局より説明

第2回津島市総合計画審議会

日時：令和2年11月20日（金）午後2時から

場所：津島市役所5階 第1委員会室